

日本医師事務作業補助研究会 北海道支部 活動報告～第1回～

第14回 北海道病院学会

2014年4月に発足した北海道支部では、医師事務作業補助者の認知度の低さが実務者の働きにくさの一因になっていると考え、支部の活動目標のひとつに「各医療機関や医師への啓発活動」を挙げました。

そして、私たちの職種を道内で広く理解してもらうための一環として、2014年7月5日に行われた、第14回北海道病院学会（ホテルロイトン札幌）にて、支部から6題の演題発表を行いました。その内容を報告いたします。

2014年9月1日

北海道支部 支部長 南木 由美

セッション18 医師事務作業補助 13:05～13:53 （座長：札幌白石記念病院 副院長 高橋 明）


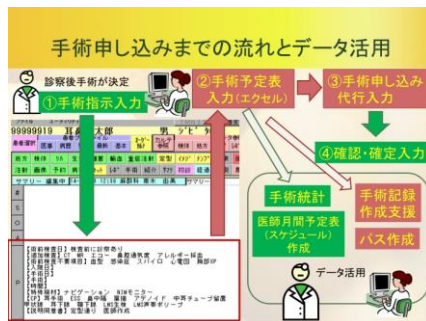
【一般演題94】 医師の直接指導下による手術オーダーリング代行業務について

〈演者〉医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院 経営管理部 医療秘書課 南木 由美

医師事務作業補助体制加算新設後、道内の施設においても実務者の業務拡大が進む一方、医師自身が医師事務作業補助者をうまく活用できていない現状が散見されています。医学教育システムが確立していない現在、もっと医師が実務者教育に参画して下されば、実務者が育ち、それが将来必ず医師自身に返ってくるということを医師や医療機関の方にお伝えするため、当院での事例に考察を加え報告いたしました。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科の概要と 医師事務作業補助体制

- 手術件数(2013年度): 372件(手術日4日/週: 平日・月・火・木・金)
- 医師数: 4名(常勤医3名、大学医局派遣の研修医1名)
- 施設基準 医師事務作業補助体制加算 1.15対1
 - 実務者: 2名(経営管理部 医療秘書課所属)
 - 勤務場所: 耳鼻咽喉科・頭頸部外科外来
- 呼称: 医療秘書
- 主な業務内容: 外来診療補助、手術予約管理、文書作成、手術申し込み代行(仮)入力、手術記録作成支援、診療情報提供書の要約・診察前の電子カルテ代行入力など

考察2

医師事務作業補助者は医師の指示を受け、業務を遂行する職種であるが、医学教育システムは確立されておらず、配置体制や業務内容も各施設での運用に委ねられている。

実務者を管理する**事務部門**においては、**実務者が医師から直接指示や教育を受けやすい環境に配慮**することが重要であり、管理者も診療科の**医師との良好なコミュニケーション**が求められる。

医師が**実務者教育に積極的に参画**することにより、より**専門的な事務作業支援が可能**となり、その結果**医師自身の負担軽減・業務効率化、患者サービスの向上に繋がる**と考える。

【一般演題98】 NCD (National Clinical Database) データマネージャー入力業務を導入して

〈演者〉心臓血管センター北海道大野病院 メディカルクラーク科 渋谷 由美子

医師にとって医師事務作業補助者は、今や欠かせない存在となり業務拡大しているが、私たち自らが、医師のニーズを読取ることも重要である。外科系医師にとってNCD手術症例登録は、時間を多く要すると予想し、NCD参加当初より、医師事務作業補助者が①データマネージャー症例登録補助業務、及び②専門医申請時の書類を準備している。「医師の入力時間の短縮」「申請手続き上の事務作業軽減」の効果을今回報告いたしました。

心臓血管センター北海道大野病院

～ 心臓血管疾患を主とする急性期病院 ～

診療科 内科・外科・心臓血管外科・循環器科・消化器科・呼吸器科・放射線科・麻酔科

15対1 医師事務作業補助体制加算
病床数 157床 (一般病棟 148 ICU病棟 9)
メディカルクラーク 18名
(一般病棟 各2 ICU 1 外来11 秘書1 課長1)

病棟・ICUメディカルクラーク業務

- 入退院カルテ管理・整理
- トラッキング患者説明
- 医師指示受け(検査/画像/食事/バス等)
- 手術データベース入力 (JACVSD/NCD/HOCARD/その他)
- 診断書作成

外科専門医申請①

・資格一覧 (医師29名/心臓血管外科医師 8名)

外科専門医 / 心臓血管外科専門医 各6名

医師免許証		認定医		専門医		指導医	
生年月日	取得年月日	学名	取得年月日	学名	取得年月日	学名	取得年月日
00000000	0000	0000	1980.12.1	000000	心臓血管外科	2013.3.31	000000
			1980.7.31	123456	外科	2014.1.1	000000

・更新・申請時期に合わせ、医師確認
・申請準備開始
・最終確認後、申請書類提出
・証書受理後、一覧表更新

NCDに関わる業務を導入して

- NCDデータマネージャー症例登録
登録項目は約80項目
医師は、**最終確認の作業のみ**となり、NCD登録完了まで**入力時間が大幅に短縮**され、医師の負担軽減となっている。
- 専門医申請時の書類準備
NCD登録により、「手術記事」の添付作業が不要となった。
また、**医師は最終確認のみ**で、資格更新ができ各種申請の準備に時間をとられることがなくなり、**診療や他の業務に専念**することができるようになった。

これらの業務は、医師から高い評価を得ている。


【一般演題 101】単科専門病院での医師事務作業補助者の取り組みについて

〈演者〉医療法人 徹仁会 厚別耳鼻咽喉科病院 齊藤 裕子

単科専門病院でも医師の過酷な勤務実態は変わらず、医師事務作業補助者は、重要な役割を担っています。医師事務作業補助者に必要な医学知識、専門知識の習得を目的に始まった勉強会は、全職員を対象とした勉強会に発展しました。その結果、知識の向上はもとより、各部門からの理解と認識が得られただけでなく、医師をはじめとする職員全体との信頼関係も築くことができ、業務がスムーズに遂行できているという現状を報告しました。

病院紹介

- 診療科：耳鼻咽喉科（専門外来：言語外来、補聴器外来、腫瘍外来）
麻酔科（ペインクリニック）
- 病床数：44床
- 医師数：常勤医師 4名 非常勤医師 2名
- 医師事務作業補助者：1名
- 医師事務作業補助体制加算：50対1



医師による教育 (1)

～平成4年より、院長の要望によりスタート！～

(第1弾) 耳鼻咽喉科の専門知識

1. 医師の記載所見（シエーマ）の理解
2. 専門用語の理解
3. 病状の理解
4. 治療内容の理解（処置、検査、手術など）
5. 1～4を理解した上での病名づけ

院長、他医師によるマンツーマンの教育
月曜～金曜 外来診療終了後 1時間
12か月間

導入後の主な業務内容

- ◆ 診断書等の文書作成
- ◆ 診療情報提供書等の添付資料の準備
- ◆ オーダリングの代行入力
(処方、検査、処置、手術など)
- ◆ データ管理
(症例件数、検査・手術の実施件数等)
- ◆ 患者説明

医療事務職員、看護師等の協力のもと
医師事務作業補助者を1名外来に配置

【一般演題 102】当院における医師事務作業補助業務の現状と今後の課題

〈演者〉特定医療法人医翔会 札幌白石記念病院 医局秘書室 本間 真由

当院における医師事務作業補助業務の現状について、業務内容の紹介とともに、業務の効率化にむけて、どのような取り組みを行っているかを報告いたしました。現状、各医療機関内で医師事務作業補助者の業務内容が模索されていることかと思えます。当院では、2014年4月からのDPC導入に伴い、院内における医師事務作業補助業務の拡大を行いました。その際の、業務拡大による結果・メリットとともに、今後の展望について報告しました。

医師事務作業補助の業務内容

- 外来業務
 - 診察補助
 - バスオーダー入力
 - 入院時オリエンテーション
 - 検査受付/振り分け業務
- 書類業務
 - 診断書
 - 退院サマリー記載
 - 診療情報提供書記載/整理
- データ集積
 - 学芸スライド作成
 - 学会用データ
 - 手帳記録作成
- 業務：医療機器PMS業務
- 検査受付業務
 - 検査検査受付
- 処方業務
 - 処方スリップ受付/記録
 - 処方業務
 - IC日誌調整
 - 再入院オーダー/入力

DPC導入に伴う外来診察補助業務を拡大

- 循環器内科診察補助
 - 月・水・金 AM10開診
- 検査受付業務
 - 平日8時45分～15時
- 脳神経外科予定入院オーダー（外来担当者）
 - 入院決定受理
 - バス追加入力（検査・薬剤オーダー）
- 病棟再入院手続き（病棟ワーク）
 - 再入院決定受理
 - 循環器内科外来予約
 - バス追加入力（診療内手術・検査・薬剤オーダー）

まとめ

医師事務作業補助者は、院内専門部署の潤滑油となり得る存在である。

- 院内各部署の状況を把握し、適宜、必要な業務を拡大する。
- 「なぜ必要なのか」にこだわらず、最も効率的で患者へのメリットを最大にできる方法を模索する。

専門職の過材配置が可能となる。

- 外注業務における業務を医師事務作業補助者が行うことで、外注業務の人数の削減が可能となり、専任職員人数を確保することができる。

PS (Patient Satisfaction: 患者満足度) の向上を目的とする。

- 「患者への関心」などを話し、患者からの声を聞くことができるため、病院内スタッフに対する患者の声を医師側に反映できる可能性がある。

【一般演題 103】当院における医師事務作業補助業務について～事務の視点から～

〈演者〉特定医療法人医翔会 札幌白石記念病院 事務部 佐藤 寛

平成 26 年度診療報酬改定、医師事務作業補助体制加算が大幅に増額となり、施設基準による要件も大きく二分され、実務に即した基準が設けられました。医師の事務的作業時間についての実態を調査するとともに、費用対効果について考察しました。

当院における医師事務作業補助について ～事務の視点から～

特定医療法人 医翔会
札幌白石記念病院
佐藤寛 村本一征 梶原寛昭 増子卓朗

検証④ 業務別時間

業務	所要時間	必要経費(円)	診療行為を実施する対価(円)	病院報酬(円)
外来業務	547.2	649,383	26,821,622	26,172,239
病棟業務	35.0	39,585	1,634,990	1,595,405
データ集積業務	32.0	36,192	1,494,848	1,458,656
合計	614.2	725,160	29,951,460	29,226,300

結論

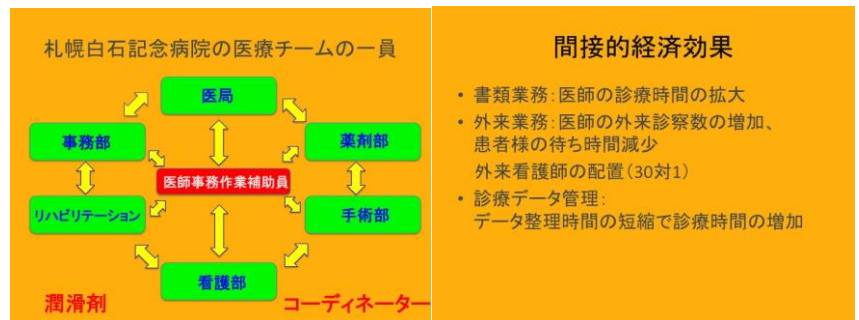
- ◆ 経費は診療報酬へ転嫁できる
必要経費しか見えず病院経営に負担が係るように見えるが、診療報酬への転嫁される利益が大きい
- ◆ 医師は医療現場へ
医師の事務的作業時間を補助することで、医師は医療現場へ多くの命と向き合う本来の姿へ
- ◆ 病院経営は健全化へ
医師をはじめ有資格者が患者と向き合う時間が増えることは、患者サービス向上につながり、多くの医療貢献を得、経営安定が見込まれる。

【一般演題 104】 当院における医師事務作業補助業務の現状と課題 ～医師の視点から～

【講 演】 医師事務作業補助者が病院にもたらすもの

〈演 者〉 特定医療法人医翔会 札幌白石記念病院 高橋 明（北海道支部 代表世話人）

2014年北海道病院学会では、北海道病院協会理事長 徳田禎久先生のご配慮で、北海道支部のスタッフから6題の演題発表と、私に20分の講演時間をいただきました。一般演題では当院の医師事務作業補助者の業務を明確化し、その作業が医師の業務にどのように影響を与えているか検討しました。医師の業務から事務作業が消失することで、医師本来の業務である診療活動に従事する時間が増えています。さらに時間外業務の減少が確認できました。結果、診療に専念できることで仕事のやりがいを感じるようになっていきます。また、診療時間の増加は病院収益にも影響を与えていることがわかりました。さらにデータ管理業務では、品質の良いデータを効率よく地域や治験に提供できていることがわかりました。



- 間接的経済効果**
- 書類業務: 医師の診療時間の拡大
 - 外来業務: 医師の外来診察数の増加、患者様の待ち時間減少
外来看護師の配置(30対1)
 - 診療データ管理: データ整理時間の短縮で診療時間の増加

講演の中では、医師事務作業補助者の業務解析から、病院という組織の中での役割と医師事務作業補助者の雇用に関する経済的問題の考察を行いました。前者ではやはり病院の中で非常に重要な役割をしており、病院の各部門をつなぐ架け橋になっていることがわかりました。また、経済的にも直接収入と間接収入を合わせると、充分 Pay されることもわかりました。最後に NPO 法人日本医師事務作業補助研究会、北海道支部の活動について地方会を中心に充分宣伝をさせていただきました。

その他の効果

- 医師から診て: 事務作業は雑務
雑務がなくなりリラックスできる時間が増加
雑務がなくなり医業に専念が出来る: やりがい
医師と他部署との連絡、調整が容易

↓

**医療者のストレスが減少
患者様のストレスが減少**

北海道支部設立の目的

- 医師事務作業補助者に関する啓発
- 医師事務作業補助者の教育

↓

**医師事務作業補助者の地位確立と向上
良質な医療と病院運営への貢献**

**日本医師事務作業補助研究会
北海道支部**

- 医師事務作業補助の発展
と良質な医療のために

皆様のご協力で、とても有意義な学会になりました。



来年の北海道病院学会は、
全日本病院学会 in 札幌
(2015.9.12~13)との
共催で行われる予定です。

(会場内の様子)